

03

戦略

自然環境・安全

一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり

基本
計画

- ① 緑の流域治水の推進
- ② 消防・防災力の強化
- ③ 交通安全・防犯体制の充実
- ④ 安全・安心な消費生活の実現
- ⑤ 環境保全・自然との共生
- ⑥ 資源循環型社会の形成
- ⑦ 上水道の維持・整備
- ⑧ 下水道等の維持・整備

1

緑の流域治水の推進



施策の方向

「球磨川水系流域治水プロジェクト」において、国、県、市町村等が連携し、まちづくりと連携した治水対策を推進することとしています。

下水道等の排水施設の整備や雨水貯留、雨水浸透施設の整備等を行い、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策を行っていきます。また、適切な森林整備を行い、森林の有する土砂流出防止機能・洪水緩和機能を発揮させ、下流への土砂流失の抑制を図ります。

また、地区ごとの氾濫特性を踏まえた水害リスクや避難に必要な防災情報の広報紙およびホームページ等による多角的かつ継続的な周知を行い、地域住民や学校など多様な主体を対象とした避難訓練の実施など、水害に関する記憶の風化を打破し、平時からの防災意識の啓発・醸成する被害軽減のソフト対策も並行して行っています。

成果指標 (KPI)

成果指標	実績値 (令和6年度)	達成状況	目標値 (令和9年度)
流域治水の事業累計数 (ハード対策)	4	△	10
流域治水の事業累計数 (ソフト対策)	20	○	30
緑の流域治水研修参加累計数 (*①)	910人	△	5,000人

(*①)避難訓練などは含まない。

主要な事務事業

- (1)内水対策事業
- (2)雨水貯留施設整備事業
- (3)治山・治水対策事業
- (4)防災・減災ソフト対策事業
- (5)移転先宅地整備事業

戦略名	戦略3	自然環境・安全	一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり
施策項目	(1)緑の流域治水の推進		

事務事業名	内水対策事業	担当課	復興支援課
事務事業概要	令和2年7月豪雨に伴い発生した内水氾濫被害を踏まえて、被災を軽減する事業		
主な取組内容 Plan	既存	球磨川流域治水協議会	新規
	既存	人吉右岸地区流域治水検討会	

		事務事業実績	
事業財源 Do	費目	令和6年度	
		決算額	令和7年度 予算額
	国庫補助金	0千円	0千円
	県補助金	0千円	0千円
	起債	0千円	0千円
	その他	0千円	0千円
	一般財源	0千円	0千円
	事業費	0千円	0千円

		事務事業評価	
		(取組成果)	
成果・課題 Check	【令和6年度】	国・県・流域市町村等で構成される球磨川流域治水協議会では、「流域治水」を計画的に推進するために5月28日及び1月5日に情報共有・検討等を行った。 また、職員一人ひとりが緑の流域治水の各取組を自分事として捉え、正しい知識を習得することを目的に「流域治水に関する職員研修会」を6年9月4日に開催し、140人程度の参加があった。	
	【令和7年度】	球磨川流域治水協議会が6月5日に開催され、情報共有・検討等を行った。 また、市民に対して「雨庭」の機能と補助金制度の紹介を行い、流域住民自らが自分事として捉え、緑の流域治水への参画を促すことを目的に「雨庭普及に向けた勉強会」を11月4日に開催し、60人程度の参加があった。	
改善内容 Action	(今後の課題)		
	流域治水を行政の取組だけでなく、企業・団体個人に流域治水の理解、浸透を図り主体的な行動を促していくことが重要である。		
	・関係各課の調整 ・流域治水を広く知ってもらうための普及啓発 ・日常生活で流域治水へ触れる機会の創造	事業の方向性 現状維持	資源配分 財源 現状維持 人員 現状維持

		実施計画		
事業財源	費目	令和8年度		令和10年度
		予算額	令和9年度 予算額	予算額
	国庫補助金	0千円	0千円	0千円
	県補助金	0千円	0千円	0千円
	起債	0千円	0千円	0千円
	その他	0千円	0千円	0千円
	一般財源	0千円	0千円	0千円
	事業費	0千円	0千円	0千円

総合戦略	魅力的な生活圏の形成 災害に強く安心して暮らせる地域の形成
市長マニフェスト	国、県、流域市町村との連携、責任自治体としての緑の流域治水を推進します。

戦略名	戦略3	自然環境・安全	一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり
施策項目	(1)緑の流域治水の推進		

事務事業名	雨水貯留施設整備事業	担当課	行財政改革課
事務事業概要	河川への雨水の流出を抑制するための雨水貯留浸透施設の整備等をする事業		
主な取組内容 Plan	既存	新庁舎雨水利用設備整備	

事務事業実績					
事業財源 Do	費目	令和6年度 決算額		令和7年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0
県補助金	0	千円	0	千円	
起債	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	
一般財源	0	千円	0	千円	
事業費	0	千円	0	千円	

評価

事務事業評価			
成果・課題 Check	(取組成果) 令和4年3月、雨水利用(トイレ利用)のための地下貯水槽(160t)を備えた新庁舎が完成し、令和4年5月から供用を開始した。		
	(今後の課題) 雨水処理水をトイレに使用するため、水道水の貯留時間が長く塩素濃度が基準値以下になる。そのため、薬剤や検査機器の購入、水道水の管理作業、雨水貯水槽の清掃業務など、新たな業務・費用が発生する。既存の建物に設置する場合は、工事費が新築時より高くなるうえ、建物の構造上設置できない場合がある。 ※費用対効果を考えるなら、地下貯留ではなく、田んぼダムのような広範囲での雨水調整が効果的であるし、たとえ工事費が発生しても住民の理解が得られるのであれば、調整池や遊水地などの方が地下貯水より効果が期待できる。		
改善内容 Action	公共施設において新庁舎のような地下貯水設備を設置する場合は、建て替え時において検討すべき事項とし施設管理担当課に周知する。 公共施設総合管理計画の改定時に、建替え、大規模改修時において設置することを追加条件として記載する	事業の方向性	資源配分
		現状維持	財源 現状維持 人員 現状維持

改善

方向性

実施計画							
事業財源	費目	令和8年度 予算額		令和9年度 予算額		令和10年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0	千円	0
県補助金	0	千円	0	千円	0	千円	
起債	0	千円	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	0	千円	
一般財源	0	千円	0	千円	0	千円	
事業費	0	千円	0	千円	0	千円	

総合戦略	災害に強く安心して暮らせる地域の形成
市長マニフェスト	国、県、流域市町村との連携、責任自治体としての緑の流域治水を推進します。

戦略名	戦略3	自然環境・安全	一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり
施策項目	(1)緑の流域治水の推進		

事務事業名	治山・治水対策事業	担当課	復興支援課
事務事業概要	豪雨災害を踏まえて、球磨川流域において河道掘削、遊水地、新たな流水型ダム等の推進、田んぼダム、森林の維持造成のための森林整備等の推進を図るための事業		
主な取組内容 Plan	既存	球磨川流域治水協議会	既存
	既存	くまもと雨庭パートナーシップ	

事務事業実績					
事業財源 Do	費目	令和6年度		令和7年度	
		決算額		予算額	
	国庫補助金	0	千円	0	千円
	県補助金	0	千円	0	千円
	起債	0	千円	0	千円
	その他	0	千円	0	千円
	一般財源	0	千円	0	千円
事業費	0	千円	0	千円	

事務事業評価			
(取組成果)			
成果・課題 Check	【令和6年度】	国・県・流域市町村等で構成される球磨川流域治水協議会では、「流域治水」を計画的に推進するために5月28日及び11月5日に情報共有・検討等を行った。 また、職員一人ひとりが緑の流域治水の各取組みを自分事として捉え、正しい知識を習得することを目的に「流域治水に関する職員研修会」を6年9月4日に開催し、140人程度の参加があった。	
	【令和7年度】	球磨川流域治水協議会が6月5日に開催され、情報共有・検討等を行った。 また、市民に対して「雨庭」の機能と補助金制度の紹介を行い、流域住民自らが自分事として捉え、緑の流域治水への参画を促すことを目的に「雨庭普及に向けた勉強会」を11月4日に開催し、60人程度の参加があった。	
改善内容 Action	(今後の課題)		
	流域治水を行政の取組だけでなく、企業・団体個人に流域治水の理解、浸透を図り主体的な行動を促していくことが重要である。		
	<ul style="list-style-type: none"> 関係各課の調整 流域治水を広く知ってもらうための普及啓発 日常生活で流域治水へ触れる機会の創造 	事業の方向性	資源配分
		現状維持	財源 現状維持 人員 現状維持

実施計画							
事業財源	費目	令和8年度		令和9年度		令和10年度	
		予算額		予算額		予算額	
	国庫補助金	0	千円	0	千円	0	千円
	県補助金	0	千円	0	千円	0	千円
	起債	0	千円	0	千円	0	千円
	その他	0	千円	0	千円	0	千円
	一般財源	0	千円	0	千円	0	千円
事業費	0	千円	0	千円	0	千円	

総合戦略	魅力的な生活圏の形成 災害に強く安心して暮らせる地域の形成
市長マニフェスト	国、県、流域市町村との連携、責任自治体としての緑の流域治水を推進します。

戦略名	戦略3	自然環境・安全	一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり
施策項目	(1)緑の流域治水の推進		

事務事業名	防災・減災ソフト対策事業	担当課	防災課
事務事業概要	防災意識の啓発・醸成する被害軽減のソフト対策事業		
主な取組内容 Plan	既存	内水対策として実施する排水機能の確保	既存 予防的避難の実施
	既存	自主防災組織等の強化、自主防災訓練の実施支援	新規 雨庭補助金創設

事務事業実績					
事業財源 Do	費目	令和6年度 決算額		令和7年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0
県補助金	9,209	千円	19,772	千円	
起債	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	
一般財源	4,605	千円	9,887	千円	
事業費	13,814	千円	29,659	千円	

事務事業評価					
(取組成果)					
成果・課題 Check	<p>球磨川水系の洪水による災害から人命を守り、財産被害の最小化を図るため、24の事業に対する交付金が交付される。</p> <p>【R6】データ放送行政情報表示事業（デタボン）、避難所・避難場所案内板整備事業（指定緊急避難場所、指定避難所9箇所、15枚表示看板を設置）、市職員防災服整備事業、水災保険加入者への支援（24件）、予防的避難の実施（高齢者等避難3回、避難指示1回）、総合防災訓練に要する経費（消耗品、炊き出し用品、会場使用料等）</p> <p>【R7】防災関係機関との情報共有体制の構築（IP無線機40台購入（災害本部・支部・医療機関用）、避難所受付システム用端末整備（タブレット端末、テンキー、NFCリーダー10セット）、避難所用簡易ベッド整備（多目的簡易ベッド20台購入）、消防団活動服購入</p>				
	(今後の課題)				
本交付金では、施設、設備等の老朽化や故障、耐用年数経過等に伴う更新及び維持管理に要する経費、飲食に要する経費、施設整備及び備品等を取得する場合の登記、登録、保険等の諸経費は含まれないため、新規に上げる場合は、事前に担当者への確認が必要である。また近年、新たな事業の枠（水害保障、雨庭等）が追加されており、それら事業を実施するためには、要綱の制定や制度を開始した場合の利用人数等の把握が必要になっている。					
改善内容 Action	新たな事業の枠（水害保障、雨庭等）が追加されており、それらの制度設計、利用人数の把握、事業の周知が必要となってくる。	事業の方向性	資源配分		
		現状維持	<table border="1"> <tr> <td>財源</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>人員</td> <td>現状維持</td> </tr> </table>	財源	現状維持
財源	現状維持				
人員	現状維持				

実施計画							
事業財源	費目	令和8年度 予算額		令和9年度 予算額		令和10年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0	千円	0
県補助金	10,444	千円	4,211	千円	4,211	千円	
起債	0	千円	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	0	千円	
一般財源	5,223	千円	2,106	千円	2,106	千円	
事業費	15,667	千円	6,317	千円	6,317	千円	

総合戦略	災害に強く安心して暮らせる地域の形成
市長マニフェスト	該当なし

戦略名	戦略3	自然環境・安全	一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり
施策項目	(1)緑の流域治水の推進		

事務事業名	移転先宅地整備事業	担当課	復興支援課
事務事業概要	豪雨災害により甚大な被害を受けた区域内にある住居の移転先を整備する事業		
主な取組内容 Plan	既存	大柿地区移転先宅地整備事業	

事務事業実績					
事業財源 Do	費目	令和6年度 決算額		令和7年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0
	県補助金	0	千円	0	千円
	起債	51,000	千円	88,800	千円
	その他	50	千円	0	千円
	一般財源	28,147	千円	40,214	千円
	事業費	79,197	千円	129,014	千円

事務事業評価			
(取組成果)			
成果・課題 Check	大柿地区からの移転先宅地整備を行う場所として下原田町に用地を購入。修正設計の後、開発許可が下り、令和7年3月27日に着工した。		
(今後の課題)			
	被災者の生活再建のためにも1日も早い整備完了が必要である。また、完成後は、維持管理を行っていく必要がある。		
改善内容 Action	宅地整備と並行して、要項や契約書の内容をつめ、1月から募集開始。入居予定者に情報を提供し、生活再建の見通しをもってもらえるよう努める。完成後の維持管理についても検討していく。	事業の方向性 縮小	資源配分 財源 削減 人員 現状維持

実施計画							
事業財源	費目	令和8年度 予算額		令和9年度 予算額		令和10年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0	千円	0
	県補助金	0	千円	0	千円	0	千円
	起債	0	千円	0	千円	0	千円
	その他	0	千円	0	千円	0	千円
	一般財源	0	千円	500	千円	500	千円
	事業費	0	千円	500	千円	500	千円

総合戦略	魅力的な生活圏の形成 災害に強く安心して暮らせる地域の形成
市長マニフェスト	国、県、流域市町村との連携、責任自治体としての緑の流域治水を推進します。

2

消防・防災力の強化



施策の方向

防災基盤の整備に加え、自助・共助・公助を基本とする官民一体となった防災体制の強化・充実を図ります。

球磨川流域の自治体や熊本県、ダム管理所、国土交通省、気象台等の機関で連携して球磨流域タイムラインを作成されており、災害に対する情報共有や災害対応を進めます。それとともに、河川の治水対策、内水対策、避難路整備等についても連携し、球磨川流域治水の安全度の向上に向けた施策を計画的に展開していきます。

消防団については、組織再編等も含めて、団員の活動負担の平準化を検討するとともに、事業所ともしっかり連携しながら、引き続き団員数の確保に努めます。併せて、老朽化した消防・防災の設備・機器については、今後も計画的に更新や整備を進めていきます。

また、水害や武力攻撃等に備えた一時避難所として、民間企業等と協定を締結するなど、これからも各種災害を含めた様々な状況を想定した協定の締結を進めていきます。

その他、大規模災害発生時には、市庁舎へ国・県・消防・警察・医療関係等が集結することから、災害応急対策の協議を行う防災拠点施設として、円滑な受援体制の構築を目指します。

成果指標 (KPI)

成果指標	実績値 (令和6年度)	達成状況	目標値 (令和9年度)
浸水想定区域内に存在する要配慮者利用施設の 水害に関する避難訓練率	53%	△	100%
地区防災計画の策定率	29.2%	△	100%
災害協定の件数	50協定	△	60協定
消防団小型消防ポンプ更新 ^(※①)	20台	△	24台

(※①) 令和2年度からの累計台数

主要な事務事業

- (1) 自主避難訓練
- (2) 総合防災訓練事業
- (3) 自主防災組織の育成事業
- (4) 防災基盤整備事業
- (5) 災害対策事業

戦略名	戦略3	自然環境・安全	一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり
施策項目	(2)消防・防災力の強化		

事務事業名	自主避難訓練	担当課	防災課
事務事業概要	マイタイムライン・コミュニティタイムラインを活用して住民による避難訓練を実施する事業		
主な取組内容 Plan	既存	自主避難訓練	

事務事業実績					
事業財源 Do	費目	令和6年度 決算額		令和7年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0
県補助金	10	千円	33	千円	
起債	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	
一般財源	40	千円	127	千円	
事業費	50	千円	160	千円	

評価

事務事業評価					
成果・課題 Check	(取組成果)				
	<p>災害対策本部では、体制確立及び被害報告に対応する訓練等を行った。人事異動により新しい職員もいることから、梅雨前に訓練を行うことにより、迅速な組織体制の確立、情報収集後の情報共有等を理解していただいた。災害対策支部では、支部設置や避難所開設訓練を行った。支部設置では、関係者等へ連絡することの確認。避難所開設では、住民が避難されてくるため、ポケコムを使った受付訓練を実施した。また、町内における自主防災組織においては、自宅から自主避難所まで集まっていたいただき避難経路の安全確認を行っていただいた。</p>				
改善内容 Action	(今後の課題)				
	<p>人事異動により人が変わることが課題であるため、梅雨前に訓練を行うことは有用である。4月5日は防災会議等の会議が多く、多忙な時期であるため、前年度の末から計画しておくことが重要である。</p>				
改善内容 Action	住民の方は、避難所までの経路の安全確認であり、避難所に着いてからは、避難所での受付のみであったため、「せっかく来たのに」という言葉があった。よって、事前にお配りできる防災に関するパンフレット等を熊本県等からいただき、配布できるようにする。	事業の方向性	資源配分		
		現状維持	<table border="1"> <tr> <td>財源</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>人員</td> <td>現状維持</td> </tr> </table>	財源	現状維持
財源	現状維持				
人員	現状維持				

改善

方向性

実施計画							
事業財源	費目	令和8年度 予算額		令和9年度 予算額		令和10年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0	千円	0
県補助金	33	千円	33	千円	33	千円	
起債	0	千円	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	0	千円	
一般財源	127	千円	127	千円	127	千円	
事業費	160	千円	160	千円	160	千円	

総合戦略	災害に強く安心して暮らせる地域の形成
市長マニフェスト	該当なし

戦略名	戦略3	自然環境・安全	一人ひとりが手を携え、安心して暮らせる生活基盤づくり
施策項目	(2)消防・防災力の強化		

事務事業名	総合防災訓練事業	担当課	防災課
事務事業概要	防災関係機関連携強化と住民参加による防災訓練を実施する事業		
主な取組内容 Plan	既存	総合防災訓練の実施	

		事務事業実績			
事業財源 Do	費目	令和6年度 決算額		令和7年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0
県補助金	0	千円	0	千円	
起債	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	
一般財源	571	千円	790	千円	
事業費	571	千円	790	千円	

評価

		事務事業評価		
成果・課題 Check	(取組成果)			
	<p>災害対策本部は、ブラインドによる本部運営訓練、国・県・消防・警察等の関係機関との共同による実動訓練を実施した。各種被害情報を報告し、リエゾンによる情報共有やそれらに対応する訓練を協力して行った。</p> <p>【令和6年度】メイン会場の人吉高校においては、家屋倒壊、土砂崩れ、災害時要支援者の搬送及びトリアージを行った後に救助搬送訓練を実施した。展示関係では国土交通省により熊本地震のパネル展示、災害時物資供給企業による防災用品の展示、自衛隊、消防の車両展示も実施していただいた。</p> <p>また、町内における自主防災組織は、避難行動要支援者の避難誘導や初期消火訓練を実施していただいた。訓練参加者数： 【令和7年度】地震想定訓練で中原校区を対象とした訓練を実施、メイン会場を二中とし、訓練内容は自主防災組織訓練（応急担架作成及び搬送・パケツリレー）、避難所運営訓練（HUG訓練）等を行った。今回は高校生と中学生の災害ボランティア約70名にも協力していただいた。</p>			
改善内容 Action	(今後の課題)			
	<p>5月は水害、10月は地震の訓練として計画的に考えていかなければならない。</p> <p>毎年校区を変えて総合防災訓練を10月に企画しているが、10月は運動に関する行事が多いため調整が必要。また、訓練の内容を各関係機関に考えていただいていることから、そちらも調整が必要である。</p>			
		事業の方向性	資源配分	
		現状維持	財源	現状維持
			人員	現状維持

改善

方向性

		実施計画					
事業財源	費目	令和8年度 予算額		令和9年度 予算額		令和10年度 予算額	
		国庫補助金	0	千円	0	千円	0
県補助金	0	千円	0	千円	0	千円	
起債	0	千円	0	千円	0	千円	
その他	0	千円	0	千円	0	千円	
一般財源	790	千円	790	千円	790	千円	
事業費	790	千円	790	千円	790	千円	

総合戦略	災害に強く安心して暮らせる地域の形成
市長マニフェスト	大規模災害を想定した総合型防災訓練を実施します。